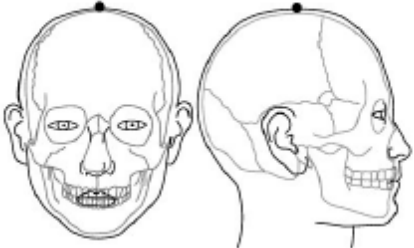

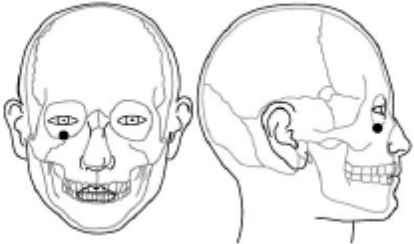
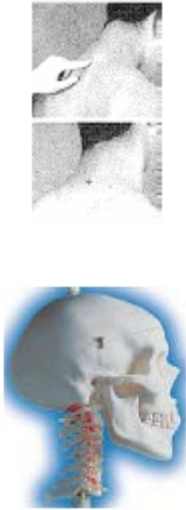
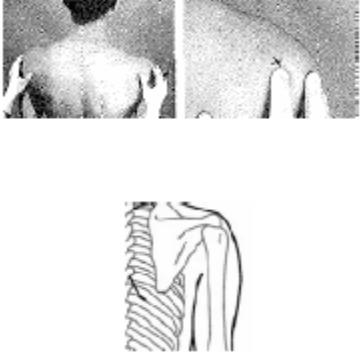


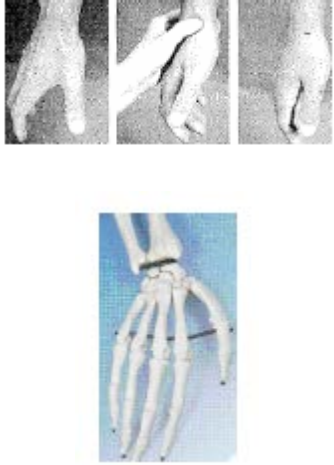





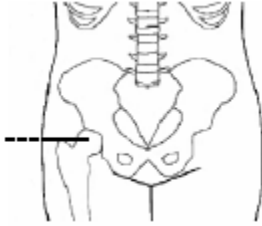






■計測点

計測点	定義	計測方法	参考文献
<p>頭頂点 (とうちよ うてん)</p>	<p>頭頂部の、正中面における最高点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・身長を計測する際に触察する ・被験者の頭部が耳眼面水平に保たれているか、特に注意する 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学－設計のための基本 人体測定項目)</p>
<p>耳珠点 (じしゅて ん)</p>	<p>耳珠 [耳の孔の前、外側にある突出] の上の付け根の点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・耳の外耳孔の前にある軟骨のすぐ上あたりを目安とする 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学－設計のための基本 人体測定項目)</p>
<p>眼窩点 (がんかて ん)</p>	<p>眼窩 [眼球が入っている頭骨の穴] の下縁のうち、最も下方にある点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・被験者の姿勢に注意する 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学－設計のための基本 人体測定項目)</p>
<p>頸椎点 (けいつい てん)</p>	<p>第七頸椎の棘突起 [脊柱を構成する個々の骨の後ろ側から出ている突起] の先端の点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・被験者にうつむいたまま首を左右に振ってもらい、動く突起の一番下の骨が第七頸椎である ・計測者が骨を触ったままの状態 で被験者にゆっくり耳眼面水平に戻してもらい、印をつける ・補助者は被験者の斜め前に立ち、首を下げて左右に振るポーズを実演する ・第七頸椎が最も突出しているとは限らないので注意する 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学－設計のための基本 人体測定項目)</p>

<p>肩峰点 (けんぽうてん)</p>	<p>肩甲骨の肩峰 [肩甲骨の背側面にある棚状の隆起の先端が扁平な大きな突起となっている部分] の外側縁のうち、最も外側に突き出している点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・被験者の後方から左右同時に触察するとわかりやすい ・被験者の肩に力が入っていないか注意する ・上腕骨頭と間違えないように注意する 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学－設計のための基本人体測定項目)</p>
<p>後腕付根点 (うしろうでつけねてん)</p>	<p>背側の腕付根線 [肩峰点、前面における上腕骨頭の中央、腋窩をとおり、いわゆる腕の付け根] から体表に沿って下におろした線と、腕付根下縁のレベルにおける体表に沿った水平線との交点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・上肢を下垂した状態で腕の下のできるだけ上方に物差しを水平に差し込み、この上縁を腕付根下縁のレベルとする ・被験者の肩に力が入っていないか注意する 	<p>設計のための人間計測マニュアル (生命工学工業技術研究所 編)</p>
<p>橈骨点 (とうこつてん)</p>	<p>橈骨頭 [橈骨の近位端の円盤形の部分] の外側近位端の点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・腕を自然に下垂した状態で肘のくぼみで骨を探る ・左手の親指で橈骨頭に触れ、右手で被験者の手をもって前腕を内外転させると、橈骨頭が回転するのでわかりやすい ・補助者は被験者が真っ直ぐ前をむいているか、姿勢を確認する 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学－設計のための基本人体測定項目)</p>

<p>橈骨茎突点 (とうこつ けいとつて ん)</p>	<p>橈骨の茎状突起 [橈骨遠位端の先端がと がった部分] の最遠位端の点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・親指を外転させるとくぼみができるのでそこに親指を入れ触察する ・印を付けるときは手の力を抜いてもらう ・被験者の手を持ち上げず上肢を自然下垂した状態で、計測者がしゃがんで触察する ・補助者は被験者が真っ直ぐ前を向いているか、姿勢を確認する 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学一設 計のための基本 人体測定項目)</p>
<p>尺骨茎突点 (しゃっこ つけいとつ てん)</p>	<p>尺骨の茎状突起 [尺骨の遠位のふくらみ から細く突き出た部分] の最遠位端の点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・手首を内側に曲げると突起が出てくるのでわかりやすい ・被験者の手を持ち上げず上肢を自然下垂した状態で、計測者がしゃがんで触察する ・補助者は被験者が真っ直ぐ前を向いているか、姿勢を確認する ・最もふくらんだ点ではないので注意する 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学一設 計のための基本 人体測定項目)</p>
<p>橈側中手点 (とうそく ちゅうしゅ てん)</p>	<p>第二中手骨の骨頭 [中手骨の遠位端にあ るふくらんだ部分] のうち、最も橈側に 突き出している点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・手首を内側に曲げると突起が出てくるのでわかりやすい ・被験者の手を持ち上げず上肢を自然下垂した状態で、計測者がしゃがんで触察する ・補助者は被験者が真っ直ぐ前を向いているか、姿勢を確認する ・最もふくらんだ点ではないので注意する 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学一設 計のための基本 人体測定項目)</p>

<p>尺側中手点 (しゃくそくちゅうしゅてん)</p>	<p>第五中手骨の骨頭 [中手骨の遠位端にあるふくらんだ部分] のうち、最も尺側に突き出している点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・被験者の手を持ち上げず、計測者がしゃがむ等して触察する 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学—設計のための基本人体測定項目)</p>
<p>指尖点 (しせんてん)</p>	<p>手の第三指の先端のうち、最も遠位にある点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・手長を計測する際に確認する ・爪を除いた指腹の先端を指す 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学—設計のための基本人体測定項目)</p>
<p>転子点 (てんしてん)</p>	<p>大腿骨の大転子 [大腿骨の上方外側にある大きな突起] の最上縁の点</p>  	<ul style="list-style-type: none"> ・被験者に足を肩幅ぐらいの幅に開いて、左足に体重をかけてもらう。膝をのびしたまま腰を左横に突き出すと、右脚の付け根に屈曲部ができる。計測者は親指と中指で前後から大腿骨頭を挟んで、人差し指で屈曲部を探って骨の一番上部を見つけ、高さ位置を決める。左足を右足に付けるよう、足を閉じてもらいながら探った点を逃がさないようにして、立位姿勢にて前後位置を決める。必ず立位姿勢に戻してから印をつける ・最外側突出点ではないので注意する ・着衣のずれが出るので着衣と皮膚の合い印をあわせてから印をつける ・補助者は被験者が真っ直ぐ前をむいているか姿勢を確認し、被験者がぐらついている場合は支える 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学—設計のための基本人体測定項目)</p>

<p>腸棘点 (ちょうきよくてん)</p>	<p>上前腸骨棘 [腸骨稜の前端にある突起] の最も下縁の点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・左右の上前腸骨棘に親指を当て、下から押し上げるようにすると見つけやすい ・腸骨稜を強めに押さえながら下へたどっていくとわかりやすい ・被験者の両足が開いていないか、姿勢に注意する ・腸骨棘の最前方突出点ではないので注意する 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学－設計のための基本人体測定項目)</p>
<p>脛骨点 (けいこつてん)</p>	<p>脛骨の内側顆 [脛骨の上部内側部にあるふくらんだ部分] の上縁で最も高い (近位にある) 点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・被験者に膝を曲げてもらう、あるいは椅子に座ってもらい測定点を探り、測定点に指を当てたまま膝を伸ばしてもらい印をつける。必ず膝を伸ばしてから印をつける ・皮膚が動くので注意して印をつける ・脛骨内側顆上縁の前方から後方にたどると見つけやすい 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学－設計のための基本人体測定項目)</p>
<p>内果点 (ないかてん)</p>	<p>脛骨の内果 [脛骨の下端部内側のふくらみ。いわゆる、内くるぶし] の最下端の点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度右足の力を抜いてもらって測定点を確認した後、両足に均等に体重をかけてもらった状態で印をつける ・足部の計測中は被験者が下を向き易いので特に姿勢に注意し、正面を向いてもらう 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学－設計のための基本人体測定項目)</p>
<p>踵点 (しょうてん)</p>	<p>踵骨 [かかとの骨] のうち、最も後方に突き出している点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・両足に均等に体重をかけてもらった状態で印をつける ・足部の計測中は被験者が下を向き易いので特に姿勢に注意し、正面を向いてもらう 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学－設計のための基本人体測定項目)</p>
<p>足尖点 (そくせんてん)</p>	<p>踵点から最も遠い位置にある足指の先端の点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・足長を計測する際に確認する ・第一指あるいは第二指にある 	<p>JIS Z 8500 : 2002 (人間工学－設計のための基本人体測定項目)</p>